

なまもろーど

The Name Road

ホームページアドレス
http://www.ranshokai.jpE-mailアドレス
info@ranshokai.jp発行所 高岡教区寺族青年会
住所 〒933-0878
高岡市東上関466
西本願寺高岡会館内
発行人 耳浦 康真
編集者 広報部
発行日 2019年3月31日

巻頭言

鸞翔会

第二十二代会長 耳浦 康真



平素より、寺族青年会の活動に多大なご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

私が本会会長に就任してからの会活動も二年が過ぎました。昨年度から模索してきた「僧侶である自分たちの内面ばかりを重視するのではなく、若手僧侶が直面している社会状況や、普段目の当たりにしている社会生活での僧侶の立ち位置を考え、外部に発信してゆく会活動」を目標として、今年度の会活動を行ってききました。

その中でも、今年度は新たな試みとして、伏木組勝興寺で開催された「ふるこはんフェス」に参加した事が、これからの会活動を行う上で、意義があったと思います。

この「ふるこはんフェス」への参加経緯は、「高岡市歴史文化協議会」から「高岡教区子ども若者ご縁づくり推進委員会」へ参加要請があり、その要請を寺族青年会が受けた形になります。

私自身もこの「子ども若者ご縁づくり推進委員会」の一員であるので、この参加要請の話は知っていましたし、「外部に発信してゆく会活動」を実現するチャンスであると思えました。また、現在、どこの宗派でも問題になっていると考えられますが、「観光地化する寺院」についても寺族青年会で考える機会になると思えました。寺院の観光地化は多くの人を訪れ、寺院を知ってもらえるので、それ自体は私も悪くは無いと思います。が、そこに根づく歴史と教えは、ないがしろにされてしまう恐れがあります。

そこで、準備期間は非常に短く、会員には大変苦労をかけたのですが、坊主カフェ&バー「LOTUS」の outlet 『宗祖讃仰作法音楽法要』を勤修する事にしました。

坊主カフェ&バー「LOTUS」は本堂外縁で、プロの方にもお手伝いいただき、多くの方に訪れていた

できました。接客にも追われる事もありませんでしたが、その場で初めてお会いする一般の方とコミュニケーションをとれたように思います。『宗祖讃仰作法音楽法要』は声明だけでなく雅楽・シンセサイザーも交え、普段とは趣の異なる法要のかたちを参拝された方には体験してもらえたと思います。

私たちは、素晴らしい教えを聞き知識を持っていても、興味を持って耳をかたむけてくださる人がおられないと教えは伝わりません。そのため、私たちが自ら人々の前に出向く必要があります。それが、「外部に発信してゆく会活動」であると思えます。

今回の「ふるこはんフェス」への参加は、そのきっかけづくりになれたと思います。あとは会員それぞれが今回の経験を基に、まだまだ私たち僧侶が社会に必要とされている事を自覚して、積極的に社会とのつながりを持っていけば、寺族青年会活動や高岡教区はさらに活発になっていくことでしょう。

みなさまには今後とも寺族青年会に変わらぬご指導ご助言を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

井波永代経

平成三十年七月二十四日

射水組 公文名 智

今年も鸞翔会として井波別院の永代経法要に出勤させて頂きました。今年のおつとめは般舟讃。数回の練習を重ねて臨んだ当日は、夏晴れの中多くの方に参拝していただき、気持ち良くおつとめできました。

昨年は、実践運動研修会で井波別院の歴史と現状について学びました。毎年恒例となっている別院永代経への出勤は、お講の皆さんに支えられている井波別院特有の雰囲気を感じられる大切な時間です。これからも鸞翔会として出来る限りの協力をしていきたいと思っています。

毎年恒例といえば、別院名物「鯖寿司」。今年の出来はどうだろうか？とワクワクして車を走らせています。今年も来年もまた同じように、庄川沿いをドライブし、真宗の歴史渦巻く井波の地へ向かいたいです。



ダーナバザー

平成三十年九月八日

糸岡組 梁 瀬 聖 志

去る九月八日、西本願寺高岡会館礼拝堂において第二十二回ダーナ・バザーが開催されました。

今回のダーナ・バザー開催の実行委員長を務めるにあたり、先般の伝灯奉告法要において大谷光淳ご門主がご親教『念仏者の生き方』の中で示された「仏法を依りどころとして生きていくことで、私たちは他者の喜びを自らの喜びとし、他者の苦しみを自らの苦しみとするなど、少しでも仏さまのお心にかなう生き方を目指し、精一杯努力させていただく人間になるのです」とのお言葉を受け、これこそ寺族青年会の活動の要だと感じるとともに、ダーナ・バザーこそ寺族青年会の活動実践の場である考えました。

私自身、何度かバザーを経験しましたが、いざバザーの実行委員長を務めるとなると難しさを痛感しました。思った程度の経験の蓄積は無く、解らない事も多く、何とも情けないと思いつつも、バザー実行委員会を通して会員との意見交換を深めながら、前回バザーからの酒類の販売、縁日ブースの設置、今回は整理券の配布といった新しい発想に驚きつつ、諸先輩方の助言、助力を頂きながら準備を重ねてきました。

バザー当日は生憎の雨模様にも関わらず、たくさんの方々が買い物に訪れて下さり、多くの収益をあげる事が出来ました。そして、これをご縁に、それぞれの「自他ともに心豊かに生きることが出来る社会の実現」への歩みを進めることが出来たのではないかと思う次第であります。



改めて今回、様々な形でバザーに関わってくださった方々、ご協力くださった方々に心より御礼申しあげます。

ふるいはんフェス

平成三十年十月六日

水波組 村上 昂 文

十月六日(土)、重要文化財で本派の寺院である伏木の勝興寺で、「ふるいはんフェス」が開催されました。

高岡市の歴史文化推進協議会主催のもと、寺族青年会もイベントに参加することとなりました。

はじめは手探りの状態で、当日までの時間も少なく、何から始めたらいいのかもわからない状況ではありました。ですが、現会員はもちろん、OB・OGを含め各方面よりお忙しい中、本当に多くの方の力をお借りし、何とか準備を終え当日を迎えることができました。

当日は、伏木中学校の吹奏楽部による演奏でスタートしました。見学ツアーやワークショップ、県内のおいしいフードやドリンクなどを楽しむことができ、来場者数は二千人を越えたそうです。

青年会としては、勝興寺本堂で宗祖讃仰作法(音楽法要)のお勤めと、外縁での坊主カフェ&バー「LOTTUS」の出店をしました。

音楽法要は総勢四十人余りの参加がありました。耳浦会長導師のもとシンセサイザーの音色に合わせてのお勤めでした。他にも雅楽の演奏を取り入れ、より厳かな雰囲気にも、また、お参りに来てくださった方々とともに散華し満堂の堂内に舞う華葩は圧巻でした。

「LOTTUS」では、開店前よりたくさんの方が並んでおられ開店から閉店まで終始満席の状態でした。コーヒー・抹茶・和菓子・オリジナルカクテルな

どを頂いてもらいながら、僧侶と一般の方との垣根を越え、壁を感じることなく、お互いに普段中々聞けないことや、抱いている不安や期待、疑問、質問などいろいろなお話をさせていただき、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。日が落ちると、LEDの蠟燭や照明を活かし、今まで経験したことのない得も言われぬ不思議で素敵な空間となっていました。

今回のイベントに参加したことで、我々には実行する力があることを知りました。寺族青年会の新たな可能性のようなものを感じました。同時に足りないものもまだまだ多いのだと知ることができました。これを今後どのように青年会の活動に活かしていくかが重要になってくると感じました。



実践運動研修会

平成三十年十二月十日

五位組 福田 慶隆

去る十二月十日、西本願寺高岡会館において、教区布教団・寺青合同での実践運動研修会が「人々の心に訴える法話のためには何が必要か」を研修テーマに開催されました。

僧侶としての歩みの中で、布教伝道(法話など)は、決して布教使に限ったものではありません。ご門徒に接することが多い日々の法務(現場)の中でこそ、布教伝道の学びが大切になるとの思いから、合同開催の運びとなりました。



ご講師には寺青OBでもある山名一徳氏をお迎えし、初めに僧侶に対する葬儀現場からの具体的な声（遺族に対する横柄な態度、読経・法話の拙さを指摘する声）を紹介され、僧侶一人一人の人間性や僧侶としての質が何よりもまず厳しく問われていることを確認されました。

特に布教伝道においては、私たち僧侶が語る「救い」というものから「現実」が抜け落ちてしまっており、だからこそ法話が入り込みにくいのだと指摘されました。「現実」が抜け落ちている理由は、私たちが聞く側の立場に立とうとしていないからであり、様々な苦悩や問題を生み出しているこの社会に目を向けていくことこそが、聞く側の「現実」に向き合うことになるとお話しくださいました。

そして社会に目を向けていくためには、仏教に限らず幅広い情報を知っていることが、布教伝道をする僧侶にとって不可欠だと仰られました。社会の問題を自らの課題として、「聖人また仏教はそのような類いの問題に對しどんなアプローチをしてきたか」という視点でお聖教を読む大切さを重ねて確認され、皆で共有しました。

浄青僧全国大会 in 広島

平成三十年十二月十八日・十九日

射水組 公文名智

今年の全国大会は安芸教区春秋会の主催のもと行われました。

テーマは『ぶち破れ!』。様々な実践や変革が求められている昨今、ただ傍観しているのではなく、今こそ重い腰を上げ行動せよ!! 私は、春秋会からのメッセージをこのように受け止めました。

ご講師はTV番組『クレイジージャーニー』にもご出演なされた辺境探検・

ノンフィクション作家の高野秀行氏。世界各地の辺境を見てこられた高野氏ならではの「ゴロラを食べた話」「ア○ン中毒になった話」などなど:それはもう壮絶な話盛り沢山でありました。そこに貫かれている精神は、「何事もやってみないと分からない」「知識の世界だけでわかった気になるな」という一歩踏み出す精神です。(ア○ンはダメ、ゼツタイ。)

春秋会の皆様には我々の想像の一步先、はたまた斜め上をいく研修・懇親の場を用意していただきました。有難うございました。

さて、次回開催は私たち鸞翔会が主催です。テーマはまだ未定ですが、私たちが今本当に目を向けなければいけない問題とは何なのか、会員みなで話し合いたいと思います。そしてそれを考えることは、お寺の将来のみならず、重い腰の上から私、失敗を恐れる私、を考えることにも繋がるでしょう。ぶち破らないとダメ、ゼツタイ。



本願寺御正忌報恩講出勤

平成三十一年二月九日

糸岡組 平野 俊

寺族青年のレクリエーションで一月九日、本願寺において御正忌報恩講の速夜法要、列衆として参加させて頂きました。

本願寺の報恩講は個人的に二回目の出勤でしたが富山に戻ってからは参拝もできず足が遠のいておりました。

法要では開始を告げる鐘の音を合図に入室し、所定の位置に着座しました。勤行が始まるまでの間、静かに着座していると、不思議と自らの意志をこえて自然と背筋が真っ直ぐになっての覚えております。足が遠のいていた自分ですが、一年に一度の親鸞聖人の御正忌報恩講

に参拝する事がこんなに心改まる事なのかと感じました。

普段の法要や月参りに慣れてくると要領を覚えいい加減になる。そんな自分を見つめ直す機会にもなり、ありがたく感じております。

個人で本願寺の報恩講にはなかなか行く事は出来ませんが、今回の寺青レクリエーションはとていい機会でした。

その夜は参加した会員とお酒を酌み交わし、素晴らしい時間を過ごさせて頂きました。今後もレクリエーションの実行委員としていろいろな方との交流を深められるような企画をしていきたいと思っております。



若者の集い

平成三十一年三月三十一日

糸岡組 初瀬部 真亮

三月三十一日(日)、仏教青年会第二回「若者の集い」が開催されました。

会場を五位組長光寺様にお借りして、ご講師に糸岡組願称寺のご住職である津山玄亮さんをお招きし、お話をいただきました。

昨年に引き続き、今回も若手僧侶をはじめそれぞれの友人たちがお寺に集い、前半は僧侶によるお茶の接待や雅楽演奏などが行われました。お互いに緊張しながらも、宗教的な雰囲気の中で特別な時間を過ごすことができたように思います。

ご講師はお話の中で、インターネットやSNSなど、今や世界中の人々と繋がっているように見えて、その実、一人ひとりの人間の心の壁や孤独は今ままで以上に感じる時代になったとおっしゃられ、仏教青年会が一つのテーマとしている「繋がり」の意味や大切さを、分かりやすいお言葉でお伝えくださいました。また仏教的予備知識がほとんどないであろう若い方々に、仏教とは人生のその時その時のそれぞれにとつての仏様との出会いや受け止めの中にある。今のあなたと共に歩んでくださっている仏様にあつてほしいと優しく語りかけてくださいました。

昨今、寺院や僧侶の未来が危ぶまれる声をよく聞きますが、この会是一般の方々を集め将来的な寺院経営のための種まきをする会だとは考えたくありません。むしろ伝統的な寺檀関係の中において、寺院生活にこもりがちな自分たち自身が、僧侶と一般の方というお互いの関係性から解放されていく中に新しい何かが生まれてくるのではないかと。今回の集いもそういう期待を胸に企画されたものであったように思います。今後も、お互いの垣根を越えて、み教えを仰ぐ仲間作りを進めていけたらと思います。





手話サークル

射水 梓

手話サークルでは例年、脇坂菊雄さんをご講師に迎え月に一回程度手話の練習を行っています。しかし今年度はなかなか練習の機会を持つことができませんでした。また、現状練習に参加することができず現役の寺族青年会会員が代表しかおらず、ほとんどがOBの方になっています。

今回の手話サークルの練習日は未定ですが、次年度もサークル員の希望を取り入れながら手話の練習をしていきたいと思っています。これから手話を始めてみたいと思われる方は、まずは一度見学からでもご参加いただければと思います。

練習の予定などお知らせいたしますので、ご興味を持たれた方は伏木組光

西寺射水までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

勤式サークル

麻生 裕善

この勤式サークルは、二〇一五年八月に雅楽練習会として結成され、二〇一六年度秋頃に寺青サークルの仲間入りをさせていただきました。活動内容は主に雅楽の練習で、月一回二人の寺青会員OBの方をご講師としてお招きし、練習をしています。現在寺青会員OBも含め十六名が参加しています。

昨年十月に開催された「ふるこはんフェス」には十名が参加し、「宗祖讃仰作法 音楽法要」において三曲の演奏をしました。また勝興寺本堂だけではなく外縁にて出店した坊主カフェ「LOTUS」でも、お客様の前で披露させていただきました。手が震えるほど緊張しましたが、会員共々非常に貴重な経験をさせていただきました。寺青との連携はもちろんのこと、これからのいろんな企画をしていこうと思えます。

私自身は勤式指導所出身ではありません。ですので経験者の方も、未経験

の方もお気軽に麻生までお問い合わせください。

フットサルサークル

麻生 裕善

昨年までフットサルサークルの代表を務めてくださった水上賢志さんが、寺族青年会引退に伴い、長年務めてくださった代表を退かれることになりました。そこでこの度、ご縁をいただきました。このフットサルサークルの代表を務めさせていただくことになりました。

勤式サークルとの兼務ということになります。法務、寺青活動はもちろんですが、参加会員の皆さんの健康維持の為に頑張っていこうと思えますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

私はこのフットサルサークルがきっかけで寺青に入会し、沢山の仲間ができました。ここには現会員のみならず、沢山のOB会員の方も参加してくださっています。一緒に汗を流すことにより年代の垣根を超えて幅広く交流させていきたいです。

また六月には浄青僧フットサル全国大会が、福岡県にて開催されます。高

岡大会以来の優勝を目指して、練習を頑張っていきたいと思えます。

尚、随時参加メンバーを募集しております。経験の有無は問いません。お気軽に麻生までお問い合わせください。

蓮花の会

篠島 麻子

今年度は蓮花の会で、関野組養徳寺坊守を講師にお願いし料理作りをしました。参加者は少人数でしたが、普段話す機会が少ない会員の方とお話できて、良かったです。自坊の御齋作りにも役立つ内容になりました。

時間が足りずに朗読はできませんでしたが、仏典童話全集の中から二話抜粋して一緒に読む予定でした。



退会の言葉



糸岡組 光顔寺 養宇理さん

幽霊会員ではありましたが、定年退会のご挨拶をさせていただきます。

近年の仏教をとりまく社会環境の変化、特に真宗においては教団・教区自身存続の岐路に立つ状況に思えます。その中で次世代の果たす役割は極めて重要に思います。

仏教・真宗の持つ長い時間scaleは、今直面している大きな変化の中で、私たちがどう知恵をしぼりどのような選択をすべきなのか、判断をする際の重要な支えです。過去に学ぶということは、単に昔を振り返るということではありません。未来の姿を想像し、立ち向かうべき課題を予見し見通すということに繋がると思います。

次代の宗門を担う寺族青年の皆様には、宗乗・余乗・歴史・法制など教師が本来修学すべきもの以外、宗門・教区内部で常識とされる運動以外にも「+α」を学び、考動することで、実りの多い青年の時間を過ごされるよう願っております。

最後に、皆さんの今後のご健康・ご活躍を願ひまして、退会の言葉といたします。



砺波組 真光寺 清水了渉さん

長い間お世話になりました。有難うございました。



氷見組 西法寺 扇澤是真さん

寺族青年会に入会して、約15年。当初はなかなか学生の気分が抜けず、多くの迷惑をかけたこともあります。そんな中、「お互い情けなくてあたりまえじゃないか、そんな他人や自分に向き合う事が大事なのですよ」と、励まし続けてくださったみなさんには、感謝してもしきれません。



新入会員募集

高岡教区寺族青年会では随時
新入会員を募集しています。
気軽に参加しませんか。



ホームページ随時更新中!!



<http://www.ranshokai.jp>

法輪せんべいのご案内

法輪せんべいは、当会が販売する法輪マークと法語が
印された一袋二枚入りのおいしいせんべいです。

この法輪せんべいの収益金は、当会活動費の他、様々
な社会活動への寄付や資金に充てられております。

報恩講や永代経のお飾りに、門信徒さんへのお返しや、
ちょっとした贈答品などに、どうぞご用命くださいませ。

(*表示してある価格は、いずれも販売価格です。)

お申し込み、お問い合わせは
代表番号 050-5587-7708
アドレスはhourin18@gmail.com



パッケージはサクラと
若草色の二色です。

品目	袋数	価格
特大	170	8,300円
1組	10	500円

編集後記

今年度も会員の皆様のおかげ
により「なまもろーど」四十四
号を発行することができました。
お忙しい中ご協力いただき、厚
く御礼申し上げます。

来年度も多くの行事が予定さ
れていきます。多くの方々の関
わりの中、内外への発信の中心
としての広報のあり方が問わ
れています。鸞翔会の活動、魅
力が伝わるよう、新たな取り組
みも進めていかなければなりま
せん。広報部一同精一杯努めて
まいりますので、どうぞよろし
くお願いいたします。

